

メディア学習・社会に自分達の意見を発信

長野県梓川高等学校教諭 福 沢 務

1. 学習目標

- ① 他者に意思を伝えるとはどういうことなのかを、新聞という素材を使って学ぶ。
- ② 取材された事件がどのようにして記事になるのかを新聞記者の特別授業を受けて学び、その後グループ毎（4人以下）に興味のあるテーマを見つけ、様々な方法で調べ、研究する。
- ③ 自分たちの考えを模造紙2枚にまとめ、クラスと梓水祭（文化祭）で発表する。
☆ 自分たちの考えを他者に伝えるということがポイントである。

2. 実施した学年および教科

3学年・生徒数……188名

総合的な学習の時間「自分と社会」（授業は金曜日5時限・1単位）

3. 指導担当者

学習係教諭11名から各クラスに2名ずつ指導教諭を配置（クラス担任以外）

必要に応じてクラス担任等、3学年スタッフが指導に入る。

4. 学習指導計画

No.	月 日	講 座 名	内 容	備 考
1	4 28	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(1)	授業の進め方のガイダンス	新聞生徒数分用意
2・3	5 8	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(2)	新聞記者の話「取材から記事となるまで」	記者10名、2時間連続
4	12	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(3)	テーマ設定	
5	19	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(4)	調査・資料収集・研究	
6	6 2	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(5)	調査・資料収集・研究	
7	9	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(6)	調査・資料収集・研究	
8	30	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(7)	調査・資料収集・研究	
9	7 7	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(8)	まとめ	
10	14	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(9)	クラス毎に研究結果発表	クラス毎のプレゼンテーション
11	8 25	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(10)	クラス毎に研究結果発表	クラス毎のプレゼンテーション
12	9 1	メディア学習・社会に自分たちの意見を発信(11)	梓水祭展示・発表	

5. ガイダンス……第1回授業・4月28日

- (1) 新聞の構成について学ぶ …… 全生徒に1部ずつ新聞を用意しておく

- 1面 ～ 32面 …… 記事の量により変わる。
- 1面 = 読者に知らせたい最も重要なニュース（大事件など）
- 2面以下 = 政治・経済・国際・文化・地方（地域）のニュース・スポーツ・芸能・コラム（囲み記事）・評論・意見・投書・小説・事故 等
- その他 …… 各種広告類等

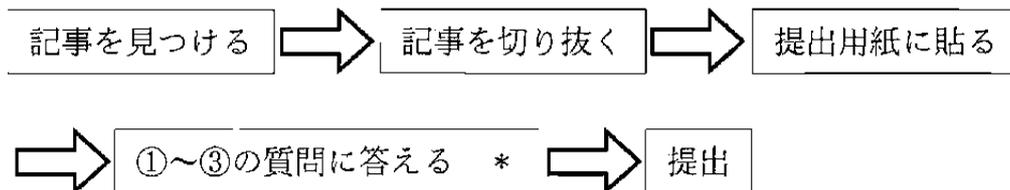
(2) 新聞記事は、その事柄を完璧に記していないことを知る

- 一つの記事で、その問題を完全にとらえることはできない。（紙面の限界）
- 取材した記者やその新聞社のデスクのもの見方、考え方により、同じ事件でもその記事内容は違ってくる。
⇒ 他社の記事を読み比べてみよう。
- 事件によっては、1日（1回）だけで終わらず、継続して記事が出る。
⇒ したがって、何日も記事を追っていく必要がある。
- 私たちも、一つの新聞記事づくりをしてみよう。

(3) グループ作り

- 4人以下のグループを作る。自由に作る。代表者を決める。
- 各グループへ提出用紙を配布する。
- メンバーの組・番号・氏名を提出用紙に記入する。（代表者を筆頭にする）

(4) テーマの決定 …… 新聞を見て、関心のある記事を探す。



(5) 「取材」の仕方について説明する

- ① 新聞記事を集める。
- ② 図書館の本を探す。
- ③ インターネットの利用
- ④ アンケートを取る。
- ⑤ 本当に出かけて行って取材する。

その他

- * ①～③の質問とは、（提出用紙に設問）
- ① 子の記事は、何の記事ですか？
 - ② 何が問題なの？何を訴えているの？
 - ③ この問題をどう解決していくの？
または、今後この問題の何を調べたいの？

(6) 今後の授業の予定について

- 5月12日からの5回の授業は各グループで、どのように取材するかなどの「編集会議」、個人の仕事分担等の話し合いに使うこと。本日テーマが決まらないグループは、5月12日までには決定すること。
- 実際の「取材」（資料集めなど）は各グループで話し合ってから放課後等に行うこと。

6. 新聞記者による特別授業 …… 平成12年5月8日（金）第5・6校時

松本市に本社または支局をもつ新聞社4社・6人の記者の方に来校いただき、特別授業を受けた。

① 授業の内容

- 新聞の作られ方
取材、デスク、整理、校閲、版についての説明。情報の流れをつかませる。
 - 新聞の言葉
メディア内部の人にとっては当たり前の用語で、一般読者には分らない「新聞の言葉」を紹介し、理解を深める。
 - 取材の手法
生徒を対象にして取材の手法を実演する。
 - 記事はどう変わる
記者自身が取材した原稿が、デスク・整理を通して紙面に掲載されるまでの変化を具体的な事例を提示して説明する。
 - 記者としてのジレンマ
仕事として毎日取材を行っている上で感じているジレンマや、一人の人間としての悩みを率直に語る。
 - 記事から何を読み取るか
真実の一つであるが、メディアを通じて流される情報は、その真実の断片を切り取った「事実の一部」であることを理解させる。
 - まとめとして
情報は「人」が取材し、「人」が伝えている。
- ② 授業後の生徒の感想（抜粋・原文のまま）
- 時差のことを知ることができてよかった。後、うわさって恐ろしいなーって思った。
 - 新聞社で働いていて、新聞記者はとにかく大変だなーと思った。いろいろなことが聞けて、仕事ということがどれほど大変かということが分かった。この授業で学んだことはこれから進路を決めるにあたってとてもいい経験になったと思う。
 - 今日の授業はとても面白かった。新聞記者は細かいことまで自分で調べて記事にする。これは本当に根性がある仕事だと思いました。
 - 新聞記者とはとても忙しい仕事のように。インターネットの時代らしい。記事を書く人と見出しをつける人が違う。朝刊には14:00から2:00までの記事が載る。
 - 新聞を作るには、人から聞いたことが大切なんだと思いました。作るということがどれだけ大変かが分かってよかったと思います。
 - 今まで知らなかったことが沢山分かった。新聞を作るまでには、ちゃんと取材して話を詳しく聞いて書いている。記者も大変みたいです。
 - 一日であんなに沢山の記事を細かく分かりやすくして、毎日日々発行してスゴイと思った。私もテレビ欄だけでなく、少しは他の事件の記事も読もうと思いました。
 - 新聞を作るときの大変さを改めて知って感じがした。取材はあちこち走り回って、編集も短い期限までに行い、それから印刷と、とても忙しいことを毎日繰り返していると思うと、とても根気や気力があってすごいと思った！！
 - 話を聞くまでは、一つの記事を一人の人が見出しから始まって全ての記事を書いていくものだと思っていたが、そうではなくて、それぞれ担当が決まっていることが分かった。なぜだと思うこと、疑問を大切にしてくき、一つの事件をいろいろな角度から見てくき、自分の目で確かめることが大切だということがわかった。

- 新聞記者はすごく大変だ。こんなに大変だとは思わなかった。記者の人が大変な思いをしていることで、僕たちが世の中のことをいろいろと分かるんだなと思った。
- 新聞記者の仕事はとても大変な事が分かった。取材源を他にももらさないということを知っていてすごいと思った。
- この2時間の話を聞いて新聞についていろいろなことを知ることができました。会社の内部のことや記事作りの現場での情報の聞き込み、時間の正確さ、見出しのことなど色々なことがわかりました。
- 裁判で取材源を明らかにしなかったので、罰金をとられたという話にはすごくビックリした。
- 記事を書くときは絶対に事実を書かないと、とんでもないことになると思った。
- 新聞などは他よりより早く情報を伝えようとするのだから、一番最初の報道というものは大切だと思う。初めて見た記事を読者は信じやすいところがあるから、情報というのはある意味で怖いと思った。
- 新聞社には報道部・文化部・写真部など色々なパートがあることが分かりよかった。朝刊の内容は午後2時から午前2時までのことが紙面になることが分かって感動した。
- 新聞を作るときに、時間の締め切りが厳しいことが分かった。新聞記者は毎日が宿題をやっているように思った。
- 毎日事件が起こる中、それを毎日記事にしていくということはすごく大変だと思った。ただそのまま伝えれば良いというわけではなく、事件にかかわった人のプライバシーなども考えなくてはいけないし、色々な地域の関わり、信頼関係が大事なんだな—と思いました。
- 許可もないのに大げさな内容の記事を書いて、うちの学校の評判を悪くされたので、嫌な気持ちになった。少年犯罪については少年の家族や学校の人の気持ちも考えて欲しい。新聞を読む側としては、やっぱり記事の内容が分かりやすい事や、詳しく書かれている新聞を買いたいと思うけど、人権のことは考えて欲しい。
- 新聞を作るのは細かい取材が“命”だと思った。
- 『なるべく短縮して書く』らしいのだが、実際難しいことを知った。
- 最近は何をするにも機械・コンピュータなどを必要としているんだな—と思いました。現場で取材してパソコンで記事を書き、デジカメで撮影し、ネットなどを使って本社に送る！ 新しいニュースをすばやく読者に伝えるため、情報伝達が高速化していることがわかった。
- 身近な人どうし、話すときはある程度知識があるから、大まかなことだけ話してもきちんと伝わっているけれども、大勢の読み手に、一つの事実を正確に伝えようとした時、自分だけ理解していてもダメ。読む人全員に事実が伝わる為には細かいことまで分かりやすく書かなくてはならないんだ—と思った。
- 取材→デスク→本社ND→整理の間で情報のやりとりがうまくいかないと、新聞でのミスも起こってしまうので大変だと思った。
- 工夫をこらしているのだから、夕刊と朝刊では紙面が違ってくこと、文字は略せるところは略して記事とすること、見出しを大きくとることなどが分かった。

- 新聞を作るには色々な人の協力が必要なのだと思う。あと記事を書くには色々な人と知り合いになっておくといいいということが分かった。
- 今までどんな風に新聞が出来るのかなど、考えた事がなかった。でも今日の話ですこし興味というか、新聞を見たら今日の話の思い出すと思う。新聞はTV欄くらいしかほとんど見ないけど、これから少しでも他の面も見ようと思った。夕刊を取っているかいないかで、朝刊の内容が違うということは知らなかった。新聞作りは情報を集め、記事にするということは大変な仕事なんだと感心した。そのそれぞれのことがすごく大変で簡単なものではないと知ったし、感じる事ができた。
- 新聞には日本や世界の政治・経済・社会・スポーツなどのニュースをはじめ、テレビ、ラジオの番組など日常生活に必要なことが載っていることが分かった。
- 大勢の人が読む新聞だから、誰もが知りたい情報を正確に伝えるのは大変だと思う。新聞には写真や字だけでは伝えきれないものもあるかもしれないけど、私たちの生活に必要不可欠であると改めて実感した。何十ページにもわたる新聞記事には人々の声が沢山入っていると思った。
- ニュースが新聞になるまで、それが私たちに届くまでには様々な過程を通過していること、また記者の方の大変さや努力、人とのつながりを大切にしていることを聞いてすごいと感じたし、これを機会に新聞をもっと読もうと思いました。新聞作りの参考にまた勉強になりました。
- 新聞記者は車でいろんな所を回って取材しなければいけないのは、なかなか大変なことだなと思った。もし何も取材することがなかったらどうするのだろうか？
- 私は新聞記者の仕事がどんなに大変なのか分からなかったのですが、聞いていたら、夜中の2時に家に帰ったりして、5時にはまた出勤すると聞いて驚きました。
- 新聞に載っている一つの事件に、記者がどんなに時間をかけているのか、どれだけの人が新聞のために頑張っているかが分かりました。記事を書く基本としてはどこまでも追求することなんだと思いました。
- 一つの記事を作るのにものすごく時間を使っているというのが分かった。取材した人が言いたいことをそのまま書くと、間違った記事になってしまうこともあるということが分かった。
- 私は今まで何も考えずに普通に新聞を読んでいたけれども、今日話を聞いて新聞一つ作るのに大変な苦勞をしているのだと思った。私たちに毎日毎日色々なニュースを教えてくれる新聞はとても必要なものだと思います。
- 新聞記者の大変さが少し感じられました。情報を得るために、自分で歩いて情報とるのが大変だと感じました。自分が友人に取材してみたら質問に戸惑ってしまい、それだけ大変だなと思いました。
- 新聞記者が取材するのにいろいろなところを走り回るのは大変だと思うし、人から真実を聞き出すのも相当な苦勞があると思う。新聞に記事を書かせるために走り回って話を聞き出す新聞記者はえらいと思うし、本当にすごいと思った。
- 新聞に書かれたことも全てが本当のこととは限らないので、いろんな角度から見ることと、「何故なのか」という疑問が大切だということが分かりました。新聞はただ記事を書けばいいとは限らなくて、いろいろな気配りが必要ということが分かった。

- た。
- 新聞記者は大変な仕事だけど、自分の取材した記事が新聞に載ればやりがいがありそうだと思います。
 - 記者の人は、いろんなことを考え、記事にしているんだなと思いました。また、新聞も配られる時代ではなくて、コンピュータで見られる時代と聞き、時代は変わったなと思った。
 - 取材についていろいろな事が聞け、普通では分からないことが分かった。人に教え知らせるものは、人が知りたがるものや、知っていて得をすることを書くことが大切である。
 - 言葉が少し違うだけで感じが違うと思った。
 - 新聞が使ってはいけない言葉があることが分かった。
 - 新聞をつくるまでには様々な苦労や細かい部署まであることがわかった。その中でも特に僕が関心を持ったことは、新聞社には整理部という所があって、ここで報道部から文化部まで打ち合わせをして編集を通して印刷された新聞を一番初めに読む読者となる部署であることが分かった。しかも整理部では紙面をどのように作ればよいのか、メイン記事をどこに載せれば読者が一番見やすい新聞となるのかを決めることまでをすることが分かった。今日の授業で僕はこれからクラスのグループの人達で作る壁新聞の作り方がより詳しく分かったので勉強になったと思います。
 - 犯罪記事のほとんどの情報源は警察なんだと思った（新人はどうするのだろうか）。小さな記事がデスクの一言で大きな記事になったり、文の書き方、伝え方で読者に与える影響が違ってくるのが驚きだった。5W1H、疑問を持つことが新聞記者には大切なんだと思った。
 - 記者は事件があればそこらじゅうに飛んでいく。記事は1時間以内に書いてその日のうちに報道させる。
 - 思っていたよりも新聞ができるまでは大変だということが分かった。取材を一人だにするのではなくて、沢山の人から話を聞いて情報をふくらませて書くということが分かった。正確に公平に確かめて記事を書いている。新聞製作も色々大変で、見て聞いて確かめたことを、すぐ連絡して記事にするということも分かった。

7. 発表テーマ一覧

テ	ー	マ	班数	テ	ー	マ	班数
事 件 (犯 罪)				ギャルについて			1
少年犯罪、17才の犯罪、少年犯罪と少年法、少年犯罪・なぜ起こすのか			6	美白ギャルVSガングロギャル			1
ストーカーとは、			1	ギャルネット			1
ストーカーの恐怖			1	ダイエット			1
ストーカー犯罪について			1				
い じ め			1	自 然 科 学			

経済問題		ブナと人間、育てブナの木	2
株価新聞	1	有機栽培	1
経済について	1	トキの雛誕生	1
社会問題		クローン牛って何だろう	1
介護って何？これが介護保険だ	2	エイズ	1
ますます増加するゴミ問題	1	長野県の温泉について	1
ダイオキシン濃度調査の結果	1	信州の自然	1
介護保険制度	1	オゾン層の危機	1
リストラ大問題	1	ス ポ ー ツ	
現代のセクハラ	1	シドニー五輪、勝て日本（サッカー）	1
献 血	1	そ の 他	
温暖化を食い止める	1	教師について	1
続発する警察不祥事	1	化粧について	1
現代の食変化に危機	1	ここのスイカは日本一	1
現代の若者に関すること		スクリーンに映る街	1
不登校の実態	1	デジタル化に向けて	1
携帯新聞	1	長野県で日産はなぜ売れているか	1
現代っ子は携帯が御好き	1	松本市の環境を後世に残すために	1
高校生の就職	1	ラーラ松本1周年	1
暴走族の行方	1	班 数 合 計	50

8. 評価についての指導と評価の観点

（指導）

- ・学んだことが自分のものになったのかどうかを考えることを「評価」という。
- ・他の授業では、教師が生徒一人々々の学習の到達度を測って、数字で評価する。

（評価の結果は、学期毎に通知票で示される）

- ・「自分と社会」の時間では、自分から学ぶことを大切にするから、自分が学んでどうだったのかを自分で評価することも行う。これを自己評価という。
- ・また、それぞれのテーマ（体験学習・ビデオ鑑賞・講演など）にしたがって、レポートや感想をもとめ、これで評価する。
- ・メディア学習では、クラスでの発表（プレゼンテーション）のときに生徒諸君がお互いに評価しあうことも行う。

（観点）

1. 自 己 評 価

以下のような観点と方法により自己評価を求めた。

- (1) 5段階による自己評価

- ① 関連資料を集めることができたか。 【 1・2・3・4・5 】
- ② 自分として一生懸命(積極的に)できたか。 【 1・2・3・4・5 】
- ③ グループとしてしっかり取り組めたか。 【 1・2・3・4・5 】
- (2) 「自分として一生懸命(積極的に)できた」のはどういう点か、具体的にあげる。
(記述)
- (3) 反省点・改めたほうが良い点(しっかり取り組めなかったこと)をあげる。
(記述)

2. 相互評価

次のような評価カードを生徒全員に配布し、互いに評価しあった。

平成12年7月 日								
プレゼンテーション相互評価カード								
発表テーマ「					3年 組			
(評価記入→ 評価欄に○を記入)								
発表者氏名	発表新聞	評価観点	1	2	3	4	5	【改善点・コメント】
		テーマの着眼点						
		良く調べてある						
		結論がはっきりしている						
		良く伝わり理解できる						
	プレゼン	分かりやすい発表ができた						
【記入者：3年 組 氏名							】	

9. まとめ(成果と課題)

<成果>

- ・主体的・自主的学習を展開するなかで、社会問題に対する生徒の関心が高まり、社会的弱者に対する思いやりの心や人間としてのあり方を自覚するようになってきている。
- ・生徒に研究成果のクラスでの発表を義務づけることにより、研究への取り組み姿勢や発表内容が充実してきた。また、プレゼンテーションの重要性を認識するようになってきている。
- ・一つのテーマを成し遂げたという満足と自信を得た生徒が多い。
- ・外部の関係機関の協力を得たことにより、学校とのつながりができた。このことは、開かれた学校づくりの一環になることでもあり、学校に対する評価も変わるのではないかと考える。

<課題>

- ・生徒に対する事前指導、オリエンテーションが決定的に重要である。また、生徒自らが学び、体験するという営みを重視することが大切である。
- ・関係機関、地域等の支援・協力なしではこのような授業は成り立たない。日頃からの付き合いや交流に心がけることが大切である。
- ・「評価(評定)」の付け方は、普通の教科・科目と異なるのは当然である。自己評価やレポート等による評価の方法について、十分なる吟味が必要である。

3年上組
 地域調査
 行状調査

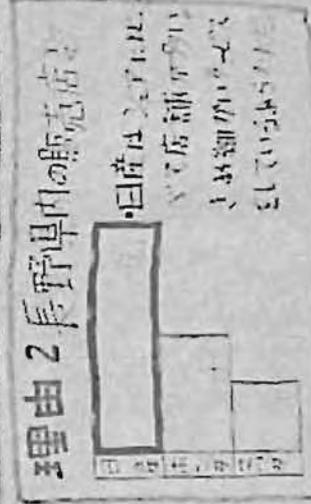
長野県で日産はか売れているか?

車種	1990年	1991年	1992年	1993年	1994年
軽自動車	10	20	30	40	50
乗用車	100	150	200	250	300
トラック	50	60	70	80	90
バス	5	10	15	20	25
合計	165	240	315	390	465

長野県で日産車が売れている理由を調査した結果、乗用車の売上が最も増加していることが分かった。これは、乗用車の需要が高まっていること、また日産車の性能やデザインが評価されていることによるものと考えられる。

理由3

乗用車の需要が高まっていること、また日産車の性能やデザインが評価されていることによるものと考えられる。



理由1

日産車の性能やデザインが評価されていることによるものと考えられる。



不登校の実態

不登校の人数

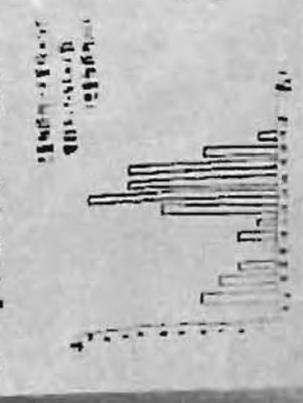
(1) 不登校の人数はどの世?

学年	人数	割合
全国	26,077人	101.675%
不登校	657人	1.741%
合計		2396%

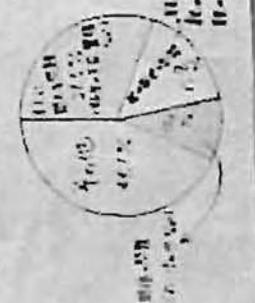
(2) 不登校の原因は何か? (理由別)



(3) 不登校は中学生と年代別



不登校の原因とは?
小学生 25,916 / 平均年齢 11.5



中学校

不登校の人数は増加傾向にある。理由は、学力低下、学習意欲の喪失、友人関係の悪化、家庭環境の変化など。また、近年は「不登校」の概念が広がり、以前とは異なる理由で不登校になる学生が増えている。

4不登校の人数を減らすには?

— 親は子供に対して —

1. 親は子供に対して、無理強いをしない。無理強いをすることで、子供の自尊心を傷つけ、逆効果を生む可能性がある。2. 親は子供に対して、十分な愛情と理解を示す。子供が不登校になる原因は、学校生活でのストレスや友人関係の悪化など、親だけでは気づかない理由がある。3. 親は子供に対して、適切なサポートを提供する。例えば、学校生活での悩みを聞き取り、必要に応じて専門家（カウンセラーや心理士）のサポートを受ける。4. 親は子供に対して、自己肯定感を高める。子供が自分の価値を認め、自信を持つことが、不登校を克服するための重要な要素である。

不登校の原因は、多岐にわたる。その中でも、学力低下、学習意欲の喪失、友人関係の悪化、家庭環境の変化などが主な原因とされている。また、近年は「不登校」の概念が広がり、以前とは異なる理由で不登校になる学生が増えている。

日本
ミドル
日本
ミドル

トルシエ監督問題

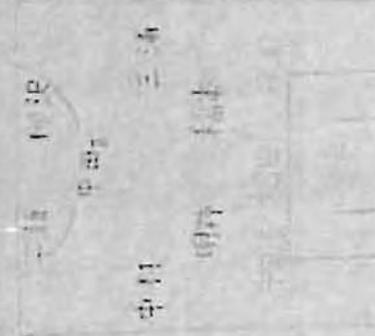
トルシエ監督問題は、サッカー界の一大問題として、注目を浴びている。トルシエ監督は、フランス代表の監督として、数々の国際大会で活躍してきた。その指導力と戦術眼は、多くのファンから賞賛されている。しかし、最近のトルシエ監督の指導は、国内リーグでも、期待に届いていない。このため、トルシエ監督の去任が噂されている。トルシエ監督は、この問題に対して、どのような返答を返すのか、注目が集まっている。

五自選手は

(一) 男

村松 誠
松本 大輔
高田 裕司
志田 誠
中村 聡

日本選手スタメン



日本代表のスタメンは、守門員に三浦大輔、中衛に中村聡、前衛に志田誠、攻撃線に高田裕司と松本大輔が起用された。このメンバーで試合が行われる。日本代表の戦術は、守備から攻撃へと移行する。高田裕司と松本大輔のコンビは、攻撃の鍵となる。日本代表は、このメンバーで、勝利を収めたい。



記録
3-4
松本 大輔
高田 裕司
志田 誠